



# 光桂寺だより

第240号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201  
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

## 報恩講のご案内

十一月に入り、二年ぶりに奉仕団で上山しました。本山は通称「東本願寺」ですが、正式名称を「真宗本願寺」と言い、親鸞上人の御廟所（お墓）がその起源です。そのため、本堂である阿弥陀堂より大きな御影堂に親鸞聖人の御真影（お木像）が安置されています。大阪万博の大屋根リングができるまでは、御影堂は世界最大級の木造建築と言われていたように、何度訪れてもその大きさには圧倒されてしまいます。明治期に再建されたその建物に、全国の篤い門徒の方々のご苦労が偲べれます。

「報恩講」とは、宗祖親鸞聖人のご命日にちなみ、親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられた方々に思いをいたし、その恩徳に感謝する法要です。教えを聴聞し、仏の願いを通して自らの生活を振り返る、真宗門徒にとって一年で最も大切な仏事です。本山では、親鸞聖人のご命日である十一月二十八日を満日中（最終日）として八日間勤まりますが、光桂寺でも毎年十二月十七日、十八日の二日間、報恩講をお勤めします。親鸞聖人の祥月命日のご法事でもあるため、報恩講のことを「御正忌」とも呼んできました。

両日とも、十二時よりお斎、十三時より「正信偈」をお勤めし、御法話を頂きます。御講師は例年通り、みやき町の徳常寺の塚本慈頭先生です。お西（本願寺派）のお寺の方になりますが、お東（大谷派）の人ともご一緒に節談説教という伝統的なお説教に取り組んでおられます。

## 十二月十七日(水)・十八日(木)

- 十二時 おとき
- 十三時 おつとめ
- 十三時半 御法話(講師 徳常寺様)
- ※十七日は十八時から「初おぼん」もあります。
- お世話前 ※朝九時にお集まりください。
- 十七日 城、京手、十楽
- 十八日 平方、光行、古飯、宝城団地



講師紹介  
塚本 慈頭 師  
みやき町  
浄土真宗本願寺派  
徳常寺前住職

## 初おぼん・おぼんのご案内

ご家族が亡くなられて初めて迎える「報恩講(おとこし)」を「初おぼん」として、数年前より本堂で一括して実施しています。従来からの「おぼん」も兼ねますので、広く皆さまのご参詣をお待ちしています。なお、「初おぼん・おぼん」にお参り頂く際は、「ご仏前」と茶菓子等のお供えのご持参をお願いしております。

## 十二月十七日(水)

- 十八時 おつとめ
- 十八時二十分 住職のお話
- 十八時四十分 お茶・懇談

## 仏教婦人会 追弔会 ご法話聞き書き

九月二十日に開かれた「仏教婦人会追弔会」での「蒲原稔彦」講師の法話を前任職が聴聞し、受け取ったことをまとめてみました。あくまで個人の受け取りでありますので、当日お聞きの方はそれぞれ違う受け取りかもしれません。が、ご容赦下さい。主題は「煩惱について」述べられました。



講師紹介  
蒲原 稔彦 師

「欲（煩惱）に生きていますからこそ救いはある」

仏教では、私たちを悩ませ、苦しめる心の中にある要素を「①欲望、②怒りや嫉妬、③迷い」の三つに分けて説かれています。これを（煩惱）と言います。

①の欲望は、仏語では「貪」と言い、物欲や本能的な欲求（食欲、睡眠欲など）、或いは名誉欲等と言ったものです。

②の怒りや嫉妬は、仏語では「瞋」と言い、「思い通りにならない事への苛立ちや、他人をうらやむ気持ちや感情を言います。

③の迷いは、仏語では「痴」と言い、正しい判断ができない心や、自分や他人を疑ってしまう気持ちを言っています。

煩惱は、生きる上では不可欠なエネルギーでもありますが、一方私たちを苦しめる原因にもなります。仏教においては、煩惱をなくす、消す、捨てることは出来ないものとしています。しかし自分の心をコントロールすれば、煩惱に飲み込まれることは無くなるとされます。欲を無理やりに抑えつけようとせず、制御するという考えが大切だと教えてくれています。

しかしこの煩惱があるからこそ、それを乗り越えたいと思う心が生まれ、悟りの世界につながっていくということが説かれています。「幸せになりたい」という煩惱があるからこそ幸せになるという考えかたです。

さてこのような世界に触れるには、聞く（聴聞）と仏教では言います」ということが大切と言われます。聞くという事は、言葉を聞くという事です。人間の抛り所、救われるのは言葉です。どんな言葉に出遭ったかということではなく、領かざるを得ない言葉に出遭い、今まで見過ごしていたこと、当たり前だと何も関心を示さなかったことに気付かされるということでありましょう。

だから、私たちが仏法を聞くことが重要となります。仏法を聞くというのは、「ほとけ様」に自分を守ってもらうのではなく、聞くことによつてこの世はどんなところで、私たちの一生はどんなことに出遭い、どう生きていくのだからかということを知っていく、領いていくことではないでしょうか。

仏法を聞く仏縁に遭い、思いがけない自分との出遭いがあり、教えの前に頭が下がるところに感動が生まれるでしょう。

教えを聞くということは、自分の考え（都合）で聞くのではなく自分の「はからい（取捨選択）」を破つて響いてくるところに、そこに教えが聞けたという実態があるのです。

この実態を実感するところに、自分の有りのままの有様の自覚が生まれ、「うなづく」という世界へと導かれるでしょう。そこに自我の世界が砕かれ、絶対真実の世界に気付かされる身が成り立つのであります。

人生は長さだけでなく多様なことを受け入れる柔軟な「幅」と、自分の「いのち」の尊さを深く受け止める「深さ」をもつて生きることが尊いのです。



### 落語会を開催しました

九月二十一日(日)、うきは市出身の上方落語家 笑福亭風喬師匠と漫画家のいわみせいじ先生をお招きし、仏間にて第一回光桂寺落語会を開催しました。まず、風喬師匠に落語を聞いた後、いわみ先生に三名の方が即興で似顔絵を書いて頂きました。中入り後、風喬師匠に「御文さん」という真宗に関係した落語を頂きました。

お二人とも、初めての会場のため最初は緊張されたようですが、会場の笑いが大きくなるにつれて緊張もほぐれ、似顔絵に手を挙げて頂いた方々との掛け合いも盛り上がり、楽しい落語会となりました。

今回は二十名強の方々に参加頂きましたが、参加者からも先生方からも好評で、ぜひ来年も開催させてほしいとお願いしました。なお、当日入場料代わりに頂いた浄財箱の一万四百年は、お寺からのお金と合わせて、お二人のお礼に充てております。



### 中学生が「職場体験」に来ました

九月十八日〜十九日の二日間、宝城中学校の二年生二名が「職場体験」にやってきました。「職業」体験であればお断りだったので、地域の「職場」でどんな仕事をしている人がいるのかを「体験」することが目的とのこと、光桂寺として初めて受け入れました。

ご門徒のお参りに連れていくわけにもいなかったので、本堂・庫裏の清掃整備が中心となりましたが、ちょうどお彼岸前だったので、仏具のお磨き、食器の拭き上げ、本堂縁側の拭き掃除、取ってきた野草でのお花生け、駐車場のごみ拾いなどなど、お彼岸を迎える準備を手伝ってもらいました。また、本堂の内敷かけやお花生けの様子も見学してもらいました。

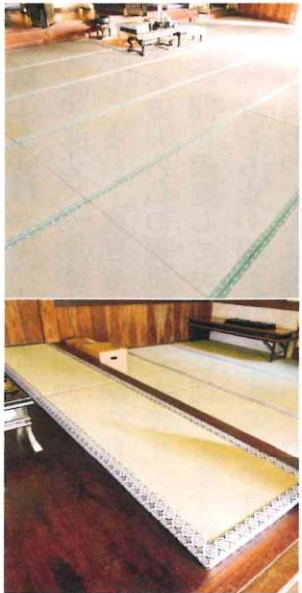
さらには、落語会の高座を借り、宮ノ陣の蓮明寺まで付き合ってもらい、お隣のお寺の住職との交流も体験することができました。参加した中学生からは、



「物の大切さを学んだ。」「お寺の維持・管理の大変さ・やりがいを感じた。」との感想文を頂きました。地域貢献の一環として、来年も受け入れを考えたいと思っています。

### 本堂の畳替えを行いました

十月下旬、本堂の畳替えを行いました。今回は、お祖母さんを納骨されている小城市の野中畳店にお願いしました。(野中さんからは、信徒として、庫裏の懇志金も頂いています。)前回(約十年前)に床も替えてあるようだが、このことで、今回は表替えのみ、八代産のイ草を織り上げた畳表に替えて頂きました。畳の下の床板に若干の傷みが見られたので、次に畳替えをする際は、床の新調と共に床板の張り替えが必要になりそうです。なお、費用は門徒会会計から出して頂きました。ありがとうございました。



### 奉仕団で上山しました

十一月一日より二泊三日で上山しました。まず、本山同朋会館へ一泊し、仏弟子となり法名を頂く帰敬式、御影堂門に上がって清掃奉仕、庭園・御殿などを



を見学する諸殿拝観、講師のお話を聞いて座談などを行いました。「奉仕団」とは言うものの、清掃奉仕は一時間もかからず、しかも普段は上がれない御影堂門に上がっての乾拭きのみ作業だったので、紅葉には少し早い京都東山の展望も楽しむことができました。今回は二日間、本山を離れ、三日目には親鸞聖人ご誕生の地、日野誕生院や法界寺など、親鸞聖人・蓮如上人の御旧跡を訪問してきました。  
(上山奉仕団には、旅費の一部として門徒会会計から補助を頂いています。)

### 二〇二六年の年忌

来年二〇二六年(令和八年)の年忌は次の表の通りになります。一周忌のみ満で数え、三回忌以降は数え年です。新年を迎えたら、光桂寺本堂に「年回表」(該当する年に亡くなら

れた方の一覧)を張り出しますので、お参りの際にご確認ください。

なお、年忌の法事はその年の内であれば命日の前でも後でも構いません。特に土日や休日のご要望に沿えないことも多いので、お早めにご相談ください。

一周忌	二〇二五年(令和七年)	没
三回忌	二〇二四年(令和六年)	没
七回忌	二〇二〇年(令和二年)	没
十三回忌	二〇一四年(平成二十六年)	没
十七回忌	二〇一〇年(平成二十二年)	没
二十五回忌	二〇〇二年(平成十四年)	没
三十三回忌	一九九四年(平成六年)	没
五十回忌	一九七七年(昭和五十二年)	没
百回忌	一九二七年(昭和二年)	没

### 門徒会会費納入のお願い

ご本山への上納金を主目的として門徒の皆さまに広くご負担頂いている門徒会会費の七千円、今年もご納金のほど、よろしく願います。  
地元(村内)の方は総代さんや世話人さんを紹介して、村内以外の方は光桂寺だよりに同封の振込用紙により郵便局にてお納め下さい。総代さんや世話人さんが集金される地区の方には、門徒会から「受領証」を発行します。払込用紙で納金される方は従来通り、郵便局から受領証が発行されます。

### おとりこしの調整について

例年、馬渡・八坂・下西のお内仏を中心に「おとりこし」のお参りに伺っています。「おとりこし」とは、光桂寺の報恩講の前に取り越して勤めるお内仏の報恩講のことです。事前に電話で時間を調整してお参りに伺っていますが、電話が繋がらない場合は後回しになりますので、近隣が終わったのに連絡がない場合は光桂寺まで連絡をお願いします。なお、坊守多忙のため、その電話調整を前坊守に依頼していますので、ご了承ください。

### 謹んでお悔やみ申し上げます

九月十五日	八坂
九月二十日	八坂
九月二十一日	八坂
九月二十五日	宝城団地
十月五日	京手
十月十七日	十楽
	八坂